

『もりおかの短歌』夏の部

〈一般部門〉 優秀賞十首

やまやま あお にお むね い
山々の青い匂いを胸に入れ

たくぼくいと

啄木愛しき

あめ しぶたみ

雨の洩民

盛岡市 進藤美貴

しろ あお
城あとの青きもみじに

うた わか ひ
かの歌よみと若き日の

われ
我かさねたり

奈良県橿原市 小西和美

おど
さんさ踊り

ねつや いき かぎ
熱夜の息は限りなし

むすめ とも せいしゆんも
娘と共に青春燃やす

盛岡市 堀米公子

さくらんぼ

ふく なが いわてさん
含みて眺む岩手山

わか おも でに あじ
若き想い出似たる味わい

盛岡市 赤坂昌信

えんどう はな ねいろ
沿道に華やぐ音色

ま わ
待ち侘びたチャグチャグ馬コ

もりおか しよか
盛岡の初夏

盛岡市 河野康夫

うま
馬コいく

わが ことつ ひ あおぞら
我娘嫁ぐ日の青空よ

わか ふたり えがおまふ
若き二人の笑顔眩しい

盛岡市 川村佳子

まち なに い ことあ
この街は何か良い事有りそうな

かいうんばし
開運橋とふ

はし わた
橋を渡りぬ

盛岡市 佐藤忠行

きたかみ
北上のケケチ、ケケチン鳴く河原

むぎ ぼうし
麦わら帽子は

あゆつ ひと
鮎釣る人や

千葉県浦安市 岩田一

たくぼく しんこん いえきみ あ
啄木の新婚の家君と吾の

くつ
靴をぴたりと

よ そろ
寄せて揃へき

奥州市 遠藤カオル

もりおか
盛岡の

ふ そそ ひ
降り注ぐ陽をなめていた

しおあめ くち ほう ごご
塩飴を口に放りこむ午後

宮城県気仙沼市 及川舞

『もりおかの短歌』夏の部

〈ジュニア部門〉 優秀賞二首

(応募時、中学生以下に限る)

たのしみはさんさおどりの

ふえ ね 笛の音とたいこの音が おと

ひびく夕方 ゆうがた

北上市 藤井彩花 (十二歳)

うみ さち 海の幸 やま さち 山の幸

き かん 来てみて感じた ひと さち 人の幸

また来るよ く もりおかに

栃木県那須塩原市 佐々木花 (十二歳)

【講評】

一般部門・ジュニア部門

盛岡はどうやら過去と交信ができるタイムマシーンかもしれない。自らの過去と対話をしたり、啄木が生きた時代や季節を感じたり……。なぜ盛岡は過去と現在の接点を持つのか？その理由を考えてみたい。さんさ踊りやチャグチャグ馬コの夏の風物詩がそうさせるのか。人々の脳裏に焼き付ける風景とは。ひとつ言えることは、盛岡の夏は短い。情熱的に一気に燃えてそして秋を迎える。それはまるで一瞬のきらめきを残して消える花火のよう。一瞬と永遠は表裏一体、その一瞬を、過去と現在を歌に託したくなる気持ちに私はわかる。

令和四年九月選 夏の部

投稿数 九十二首

選者 山本 玲子